



生命都市へ 学校が実践

ヘチマやアサガオなどを窓辺ですのこ状に栽培して、建物などの温度を下げるグリーンカーテンの取り組みは、本市の「水と緑と詩のまち」のキャッチフレーズにふさわしいものです。

わたしは、本市の豊かな自然環境を守りながら、すべての生命を尊び、はぐくみ、誰もが安全に安心して暮らせる「生命都市いきいき前橋」を目指しています。

皆さんは、グリーンカーテンのある教室が、ほかの教室と比べて、涼しいことがよく分かったのではないのでしょうか。また、植物の栽培を通じて、自然と触れ合うことや、みんなで協力することの大切さを学んだと思います。

これからも自然を大切に、豊かな心を身に付け、立派に成長することを期待しています。

今年は多くの学校や幼稚園で取り組んでいただき関係者の皆さんに感謝しています。来年は、家庭でもグリーンカーテンが取り組まれ、全市で広がれば素晴らしいと今から期待しています。
(グリーンカーテン実践優秀校・園表彰式、9月11日、庁議室)

ふれあい 広場

まえばし シティフラッシュ



敷島公園松林で九月十日、ふれあいバザールが開催されました。衣類や小物などの露天には、掘り出し物を求める人たちが大変なにぎわい。熱気球、ミニSLの搭乗やステージ発表も行われ、家族連れなどが楽しい一日を過ごしました。

買い物や催しでにぎわう



国際交流サッカー

国際交流サッカー大会U-12前橋市長杯が9月16日から3日間、総合運動公園など3会場で開催されました。韓国とオーストラリアからも参加し24チームが対戦。子どもたちは言葉の壁を超え、ボールを通じた交流を深めました。

下水道の日に開放

9月10日の下水道の日に、水質浄化センターの一般開放が行われました。さまざまなイベントに、子どもたちは大喜び。管廊探検では、処理施設を巡り、下水がきれいになっていく様子に驚きの声が上がっていました。



芳賀地区

敬老の日に 多彩な催し

九月十八日、端気町公民館で敬老祝賀会が行われました。毎年敬老の日に行われる秋の恒例行事です。
七十五歳以上五十五人を招待し、たくさんのごちそうや練習を積んだ子ども八木節、フラダンス、だんべえ踊りなど多彩な催しでもてなしました。楽しい出し物が始まるとお年寄りたちは食べる手を止め、舞台発表に見入って楽しいひとときを送っていました。
下田公一自治会長は「顔なじみの人が、元気で健康な姿を見せてくれるのが何よりです」と話していました。



新しい公園 完成を祝う

下川淵地区



横手町の横手わせた緑地が完成し、九月九日にオープニングイベントが開かれました。地区の新たな交流の拠点。当日は、近隣自治会長や高木市長らも出席し、七中吹奏楽部の演奏や郷土芸能が披露されたほか、模擬店やバザーなどもあり、五百人以上の人でにぎわいました。今後、この緑地には住民たちの手で花なども植えられるそうです。
岡本正公園愛護会長は「地域みんなの希望を踏まえて完成した公園です。交流の場として大切にしていきたいです」と話していました。



障害者空手道大会で全国優勝
深津 修一さん(54)
柏倉町

指導する子どもたちが後押し

先月十五日に行われた「第二回全日本障害者空手道競技大会」男子・形と組手の二部は三十年ぶり。県代表として

恥ずかしい試合はできないと緊張しました。何とか二冠を手にしたのは、支えていただいた皆さんのおかげ」
形で優勝した後、組手の部で対戦が始まり、決勝で相手にリードを許してしまつた。「二部門に出場したため試合が続く、足がけいれん。少し弱気になりましたが、指導している子どもたちの顔が浮かび、それが後押しになって勝つことができました」
高校卒業後、農業研修で訪れていたアメリカ・オレゴン州でテコンドーに出会つた。帰国後、本格的に空手に取り

組み、昭和五十二年、当時の宮城村体育協会に空手部を創設。現在は週五回、自宅に隣接する道場や宮城中などで地域の子どもの指導している。「農作業中に手を切断する事故に遭うなど、苦しい思いを何度もしました。それでも自分を見失わず生きてこれたのは空手があつたから。肉体的に衰えても技に円熟味を増すことはできます。生きるエネルギーを与えてくれる空手。体力の続く限り続けたい。」
鍛えられた体と精神力、そして、その真剣な生きざまが子どもたちの手本だ。